

第2章

施策マネジメントシートによる評価

まちづくりの基本目標 2

心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり

1 学校教育の充実

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└──	2-1-1 学校教育の充実
主 管 課	教育推進課	

2 社会教育の推進

第5期芽室町総合計画

政 策	2-1	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
施 策	└──	2-1-2 社会教育の推進[主管課]社会教育課
主 管 課	生涯学習課	

3 地域文化の振興

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└──	2-2-1 地域文化の振興
主 管 課	生涯学習課	

4 スポーツしやすい環境づくり

第5期芽室町総合計画

政 策	2-2	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
施 策	└──	2-2-2 スポーツしやすい環境づくり
主 管 課	生涯学習課	

施策番号	施策名	学校教育の充実	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
2-1-1	施策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実	政策名	
	主 管 課	教育推進課	課長名	坂口 勝己
	施策関係課			内 線 441

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図	結果			
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒	・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り拓くための資質・能力を身につける	児童生徒が社会に出たときに自立できる			
成果指標		単位	説明	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標
①	「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	%	全国学力・学習状況調査	72.9 (R3)	72.8	77.6	80.0
②	「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	%	全国学力・学習状況調査	79.5 (R3)	84.3	89.3	80.0
③	「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	%	全国学力・学習状況調査	87.7 (R3)	82.0	78.8	90.0
④							

成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、①「豊かな学力」、②「豊かな心」、③「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。
目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。

2. 施策の事業費

施策事業費 (千円)	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
1,032,264	929,243	935,579		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察						
①2024年度の成果評価面 (前年との比較)	☐ 成果は向上した	規定される理由	指標①は少人数学級編成、授業改善、不登校支援、ICT教育環境の整備など、個に応じた指導の充実を図ったが回答者入れ替えによる減少、指標②はコミュニティスクールの推進や積極的な児童生徒の指導の推進による増加、指標③は食育・食農教育の充実を図るも、家庭との連携不足による減少と想定される。			
	☒ 成果は変わらなかった					
	☐ 成果は低下した					
②第5期総合計画 (2028年度)の最終的な目標達成状況	☒ 現状の取組の延長で目標は達成でき	根拠 (理由)	指標①②の目標達成に向け、少人数学級編成や学習態度別少人数指導、特別支援教育の充実、不登校支援システムの利用、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実や、コミュニティスクールの推進を図っているが、これらの取組を推進により、指標①の目標達成と指標②の更なる向上を目指す。 指標③の目標達成に向け、栄養教諭・管理栄養士による全校の全学級を対象とした食育指導や食農教育の充実を図っているが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携の推進により、目標の達成を目指す。			
	☐ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能					
	☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をして目標達成は難しい					
(2) 施策の成果評価面に対する2024年度事務事業説明						
①施策の成果向上に貢献度が高かった事務事業	①児童生徒支援事業	②施策の成果向上に貢献度が低かった事務事業				
	②小学校(中学校)教材・教員支援事業					
	③コミュニティスクール運営事業					
③事務事業全体の振り返り(総括)	・事業①⇒町独自に令和5年度から小中学校全学年30人以下学級編成のため町独自で臨時教諭を配置したほか、特別支援教育の推進のための地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、不登校支援システムによる個に応じた支援を推進した。 ・事業②⇒GIGAスクール構想推進のため継続して教育DX推進員やICTヘルプデスクを設置しているほか、通信速度の改善や授業支援ソフト導入を図る等、ICT活用推進のための環境を整備した。 ・事業③⇒コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育を推進し、「めむる未来学」の推進を通して「夢育・郷育」の醸成を図られた。					
	(3) 施策の方針・実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)					
担当課 評価面	少人数学級編成、特別支援教育、不登校支援、ICT教育環境の整備、医療的ケア児対応など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実やコミュニティスクールの推進を図ったが、成果指標は上昇と減少が混在したことから、施策全体としては計画策定時と比較し変わらない又は維持したと考える。					
	A	B	C	D	E	
	進捗結果					
○						

A: 整理した
B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した
E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測 《施策を取り巻く状況》 ①学校施設等の老朽化対策や多様なニーズへの対応(R1:学校施設等長寿命化計画策定) ②医療的ケア児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒の増加への対応(R2:地域コ－ディネーター複数配置) ③ICT教育推進への対応(R6:第2期ICT整備・活用指針策定) ④登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応(R6:不登校支援システム一部改訂) ⑤部活動の地域移行への対応(R6:部活動地域移行推進協議会設置) 《今後の予測》 ①小中学校配置計画(R8策定)による、児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備 ②児童生徒支援のための人的配置やIT技術等を活用した取り組み ③ICT活用指針に基づく情報活用能力の育成、授業改善、校務の情報化の推進 ④不登校支援システムに基づく組織的取組の定着 ⑤「部活動の地域展開」に向けた町の方針の策定	・児童数減少により複式化が予測される学校保護者等から、次期小中学校配置計画に向けた意見や要望がある。⇒R8～R6PTAや地域住民と意見交換を実施、R7アンケート調査や諮問機関における協議実施。 ・不登校児童生徒への支援が必要である。⇒不登校支援システムに基づく組織的・計画的な取組や、相談体制強化を検討、R7相談体制の強化や道教委メタバースに参加。 ・不登校支援システムを推進する上で専門性が必要である。⇒システム策定時に有識者の意見を踏まえ策定したが、見直しを図りながら今後も継続したシステムを推進する。 ・部活動の地域移行については、慎重に取り組む必要がある。⇒R6協議会において課題抽出や解決策を議論、R7方向性を後継等を行う。 ・朝食摂取率を向上させる必要がある。⇒庁内横断的な取組みとして関係課で情報共有。
---	---

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

① 豊かな学力の育成(児童生徒支援事業)⇒小中学校全学年における30人以下学級編制の実施等による学習態度別・少人数指導の推進、指導主事(主幹)配置による学校運営の推進と地域コ－ディネーター機能の充実、教育DX推進員の配置によるICT教育の推進、小中一貫教育の推進を図る。 ② 豊かな心の育成(児童生徒支援事業)⇒道徳教育や情操教育の充実、「いじめ防止基本方針」「不登校支援システム」「学校風土調査」に基づく未然防止と早期発見・早期対応を図る。 ③ 健康やかな体の育成(学校健康診断実施事業・学校給食管理運営事業)⇒基本的な食習慣や生活習慣の確立のため、食育・食農教育、生活習慣病検査など、細育や健康教育を推進する。 ④ 特別なニーズに対応した教育の推進(児童生徒支援事業)⇒地域コ－ディネーターを中心とした発達支援システム、医療的ケア児支援法を踏まえた組織的支援体制の確立を図る。 ⑤ 質の高い教育環境の整備(小学校・中学校教材・教員整備事業)⇒教育DX推進員の配置、AIドリルの導入などハード・ソフト・人材を一体としたICT環境の整備、部活動の地域移行に向けた町の方向性の検討、小中学校配置計画更新(R8)を見据えて児童生徒数の減少を踏まえた学校施設の計画的整備を進める。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、維持したと評価する。	A	B	C	D	E
進捗結果					O	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した	B:	C:	D:	E:
		B:	C:	D:	E:	
		C:	D:	E:		
		D:	E:			
		E:				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	C:成果指標②を重視した。 ・GIGAスクール構想の推進のためICT整備等環境整備を行っているなど全体の文章から評価。 D:成果指標の増減消在のため ・取組みは評価するが、向上しているなど記載がないため。 E:成果指標の減少。特に成果指標③を重視したため。	A	B	C	D	E
進捗結果				2	2	1
今後の取組に対する意見	・教員は人事異動がある。茅室町の独自のポリシーを赴任した教員に伝えていってほしい。 ・ICT教育については不安がある。進めるのであれば、検証などはして欲しい。 ・小学校から中学校に上がるときにPCが変わる。前の人の使用状況によって変わり、劣化の激しいものもあるため使い続けられないか。	A:実現した	B:	C:	D:	E:
		B:	C:	D:	E:	
		C:	D:	E:		
		D:	E:			
		E:				

施策の外部評価(専門部会)意見への対応一覧

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
1	2-1-1	学校教育の 充実	意見	教員の人事異動について。 芽室町の独自のポリシーを赴任した教員に伝えて いってほしい。	教育推進課
			対応方針	① 対応する 2 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	各種協議会等参画・支援事業	
			対応内容	毎月、校長会議、教頭会議を開催し、会議時に教育長作が作成した資料等を用いて、芽室町教育委員会が力を入れている教育方針等について、共有を図っております。 また、会議後には各学校の職員会議等において、校長から情報伝達が行われております。	
2	2-1-1	学校教育の 充実	意見	参観日で見ていると、PCと教科書を併用すると机が狭かったり、PCの起動がうまくいってない子どもがいたりした。 ICTを進めるのであれば、検証などはして欲しい。	教育推進課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	教材・教具整備事業（小・中）	
			対応内容	授業でタブレット端末を用いる際、机上のスペースが狭隘となることは承知しております。しかし、タブレットの大きさをサイズダウンすることで机上のスペースが確保される一方、画面が小さくなるデメリットも生じることから、次期の端末更新の際には学校と意見交換を行うなどの検討を行います。	
3	2-1-1	学校教育の 充実	意見	小学校から中学校に上がるときにPCが変わる。前の人の使用状況によって変わり、劣化の激しいものもあるため、使い続けられないか。	教育推進課
			対応方針	1 対応する 2 検討する ③ 対応不可	
			対応事業名	教材・教具整備事業（小・中）	
			対応内容	GIGAスクール構想の下で整備されたタブレット端末は、授業の際に小学校と中学校で異なる使用するアプリの環境が異なるため、小学校からの持ち上がり使用はできません。	

施策番号	施策名	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり	
		実施年度	実施内容
2-1-2	社会教育の推進	2024年度	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実
	生涯学習課	2025年度	451
	生涯学習課	2026年度	

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
学習機会や場の提供など学習環境の充実を学習機会図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民	「いつでもどこでも」「たれでも」が学ばずことができる学習環境を整備する				町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組む、人と人とのつながり、心豊かに育つまちづくり	
		単位	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度目標		
		① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	社会教育課調べ	人	419 (R3)	291	457	1,190
		② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	76.0	77.3	80.9	80.0
		③						
④								

①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。
②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。

成果指標設定の考え方

2. 施策の事業費

事業費	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施設事業費(千円)	102,934	135,246	156,776	

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察						
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	☒ 成果は向上した	想定された理由	①の指標は、読書感想文コンクールの応募数に大きく影響を受けたところであるが、R6年度から新たな取組を実施したことに伴い、前年度と比較して成果指標の向上につながった。 ②については、少年教育各種事業、ジモト大学、コミュニティスクールや公民館、図書館、ふるさと歴史館等の各種事業の実施に一定の理解が得られた結果と捉える			
	☐ 成果は変わらなかった					
	☐ 成果は低下した					
②第6期総合計画 中期見直し計画 2026年度の最終的な目標達成状況	☐ 現状の取組の延長で目標は達成でき る	根拠 (理由)	①の参加者数については、読書感想文コンクールの応募数の減少(学校の授業等で取り扱わなくなった)により、目標数には届いていない状況が続いていたが、令和6年度から新たにPOP部門の新設もあり、応募点数が多くなったことによるものである。 ②の指標については、コロナ禍も終了し、想定される理由にも示したとおり各種社会教育事業が実施されたことと、また、ジモト大学やコミュニティスクール事業等を通して、広く住民を巻き込んだ事業が、まちづくりの一環として貢献されてきたものと考ええる。			
	☒ いが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能					
	☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい					
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事業実施状況						
①施策の成果向上に 対して貢献 度が高かった事 務事業	少年教育活動運営事業	②施策の成果向上に 対して貢献 度が低かった事 務事業	①施策の成果向上に 対して貢献 度が低かった事 務事業			
	コミュニティ・スクール運営事業					
	公民館施設維持管理事業					
	中学生国際交流事業					
②事務事業全体の 振り返り(総括)	各種事業がすべて再開された中で、各事業の点検、確認等を行いながら、よりアツプデートされた事業となるよう考えていくようにしたい。 その中で事業の廃止、統廃合等出来ることも検討していきたい。 人財育成の観点からジモト大学の取り組みやコミュニティスクール事業が浸透してきたことは明らかな材料であり、これらを確実に推進することで、新たなコミュニティの広がりが、まちづくりにも貢献できるものと考ええる。					
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課 評価	社会教育分野に係る様々な事業(少年教育各種参加・体験事業、公民館、図書館、ふるさと歴史館、ジモト大学、コミュニティスクール、柑樹学園、家庭教育学級等)を通して、幅広い年代に事業を展開できたことが、満足度をあげる要因になったものと考ええる		進捗結果			
			A	B	C	D

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	・生涯学習において「いつでも、どこでも、誰でも」が自由に学べる学習環境の整備 → 電子図書の実施(R5.10～) → 身障者にも配慮した図書機能の充実 → 公民館事業、ふるさと歴史館等、興味を引く事業の実施 ・子ども活動の減少 → 少子化に伴う単位子ども会の減少は、町内会活動にも通じる → 町内会担当の魅力創造課との連携についてR7年度事業展開を予定。 ・柏樹学園の活性化 → 生徒数の減少傾向は落ち着いてきたところであるが、さらなる活性化のため、他自治体の状況等の確認を行う ・コミュニティ・スクールの事業 → 学校支援ボランティアが増える等徐々に浸透してきている ・ジモト大学事業 → 白樺学園だけでは無く、茅室高校にも探究の時間として活用する等の動きが出てきた。 → 居場所づくりプロジェクト等の新たな動きにつなげる
この施策に対して住民・関係会・組合などのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・コミュニティ・スクールの取組みについて、OS通信、学校支援ボランティアの活動事例の紹介等について冊子作成、配布し認知度向上に努めた。 ・子ども会活動の継続支援(単位会の減少や役員のなり手不足等の現状把握と対応) ・ふるさと歴史館の活用(各種講座、特別展示等の実施) ・図書館機能の充実(電子図書の拡大・浸透)

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

・社会教育推進中期計画(R5-R8)の着実な推進と次期計画に向けた対応の検討 ・地域コミュニティの活性化 → コミュニティスクールの浸透を通し、地域に開かれた学校の推進と地域住民とのコミュニティの醸成 → ジモト大学事業による人材育成。人的ネットワークの形成。地域コミュニティの活性化。 → 柏樹学園の充実～他自治体を参考 → 単位子ども会の減少～町内会活動(魅力創造課)との連携 ・社会教育施設の有効活用と維持管理 → 公民館機能の発揮(各種講座等の推進) → 図書館機能の推進(電子図書の浸透、拡大) → クーリングシェルト機能の確保(中央公民館・図書館) → ふるさと歴史館の運営と事業の充実(各種講座、体験会、特別展示等の実施)
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
進捗結果				○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した	C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した	D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した	E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	・成果指標①は、昨年実績より数字が大幅に増加。②は、目標値を既に上回っているため。 ・幅広い世代とある中で、成果指標は子供向けなのが気になるが、成果指標②が目標値に達していることから。	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	・子どもと大人がどちらも学べる形ができていいと思う。 ・部活動の地域移行について、社会教育委員・スポーツ推進委員で、同じテーマで話している内容が合う内容が違ふ。そのため、皆で話す機会を作ってもらえたらと思う。 ・住民が動きたくなくなるような雰囲気づくり・立ち位置を今後も続けてほしい。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した	C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した	D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した	E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

施策番号	施策名	地域文化の振興	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
2-2-1	施策名	地域文化の形成とスポーツ環境の充実	政策名	
	主 管 課	生涯学習課	課長名	江崎 健一
	施策関係課	環境土木課		451

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		意図	結果			
① 文化活動がしやすいと感じる町民の割合	地域における文化活動への参加を促進するとともに、文化財などの収集・活用をすすめます。	町民	文化・芸術を身近に感じさせる地域づくり			
	文化活動がしやすいと感じる町民の割合	73.0 (R3)	70.1	73.0	78.0	
② 地域文化活動への参加者数	生涯学習課調べ	1,172 (R3)	1,439	1,562	1,400	
③						
④						
成果指標設定の考え方		①前期計画で得られなかった評価(45%超)を目標値としたもの。 ②現状の加速する減少率を改善し下げ止まりの傾向を示すもの。				

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費 (千円)	17,262	20,115	19,470		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察														
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	☑ 成果は向上した	想定される理由	文化・芸術活動がコロナ禍を経て全面的に再開されたことにより、活動が活発化されたものと想定される。 各種文化・芸術事業の参加人数が増えたことも要因の1つと考える。											
	☐ 成果は変わらなかった													
	☐ 成果は低下した													
②第6期総合計画 画後期実施計画 (2028年度)の最終的な目標達成状況	☐ 現状の取組の延長で目標は達成でき る	根拠 (理由)	活動が全面的に再開されたことにより、参加人数が増え、当初の目標をクリアすることになったが、意識調査の指標は目標には届いていないところである。指標向上に向け、様々な活動がより認識されるようSNS等も活用しながら、目標達成に向けていき たい。 芸術鑑賞の町民参加による実行委員会の継続、町民文化展の出展者増に向けた取組は継続的に実施する。 文化協会をはじめとする関係団体と連携し、多様な文化・芸術活動に寄与していく。											
	☑ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能													
	☐ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい													
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括														
①施策の成果向上に 対して貢献度が高かった事務事業	芸術鑑賞会等開催事業	②施策の成果向上に 対して貢献度が低かった事務事業												
	芸術・文化振興支援事業													
	文化賞等授賞式開催事業													
③事務事業全体の振り返り(総括)	・町民との連携による文化芸術活動の充実 芸術鑑賞会等開催事業は、町民有志による実行委員会組織で企画・運営されているところであり、町民参加という意味では有効である。多くの集客を得ることにより、満足度と費用対効果をあげることが目指す。 ・町民文化展の出展はコロナ後年々上昇している点は評価できる。 ・児童生徒の文化芸術振興 全国全道大会出場支援は、文化活動支援として浸透していることから引き続き実施していく。 ・文化協会については役員の高齢化、加盟団体の減少等もあり会員数が減っている状況。													
	(3)「施策の方針・実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)」													
	担当課 評価	新型コロナウイルスの5類移行以降、文化・芸術活動が活発化されてきた。全道全国大会への支援等、子ども達の文化活動等の支援を継続し更なる振興を目指す							進捗結果		A	B	C	D
C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した														

6. 經營戰略會議(片內評價)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)							
評価	B ・成果指標が上昇し、事業費も下がっていることから評価。 C ・成果指標の上昇。	進捗結果	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	・他自治体も含めた、文化・スポーツ・芸術等の分野の方の活躍できる場の提供や、紹介を行ってほしい。 ・文化協会への補助のあり方の検討。 ・文化は多様化している。行政はどうぞすれば町民が楽しめるかを考えて、事業してみてもどうか。 ・裸みこしなど、郷土の歴史の保全に注力してほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した		1	4		

施策番号	施策名	基本目標
2-2-2	スポーツしやすい環境づくり	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり
	政策名	地域文化の形成とスポーツ環境の充実
	主管課	生涯学習課
	課長名	江崎 健一
	施策関係課	内 線 451

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図	結果	
町民がいつでも気軽に自由にスポーツできる環境づくりをすすめます。		町民	いつでも気軽に自由にスポーツでき健康で明るいまちづくりを実現するようになるようにする	健康で明るいまちづくりを実現する	
成果指標		単位	数値(目標)	2023年度実績	2024年度実績
① スポーツしやすい環境であると認める町民の割合	住民意識調査	%	83.5 (R3)	79.8	82.1
② 芽室町内の体育施設利用者数	利用実績	人/年	124,734 (R3)	165,505	170,651
③ 高校生以下の初心者(ゲートボールを体験できる機会)	生涯学習課調べ(教室・講座数)	回/年	21 (R3)	30	23
④					
成果指標設定の考え方		①住民満足度として非常に高い評価を得る数値とするもの。 ②前期計画で達成できなかった数値を目標とするもの。 ③事業機会を30%UPで推進しようとするもの。			

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費(千円)	272,165	2,114,015	559,223		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察						
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	☑ 成果は向上した	想定される理由	体育施設利用人数はR5.7に開設した温水プール、トレーニングセンターを中心に増加した。意識調査については前年度を上回るものであり、一定の理解は得られていると考える。			
	□ 成果は変わらなかった					
	□ 成果は低下した					
②第5期総合計画後期実施計画(2023年度)の最終的な目標達成状況	☑ 現状の取組の延長で目標は達成できる	祖地 (理由)	一部施設の閉鎖(総体第1アリーナ、芝サッカーグラウンド)もありながら、温水プール・トレーニングセンターを中心に施設利用人数が増えた。『一流を見て・聴いて・学ぶ』事業として、新たにレバノン・北海道との提携事業、オール・オリンピックズとの提携など、様々な競技の招致を行った。ゲートボールの普及については、本町が定める「挑戦の流儀」(R7更新)の達成に努めるとともに、国際的流れ(R6ブラジル・R7中国・台湾等の発祥の地杯参加)や他地域との連携を含め、GBの普及を進めるものである。			
	□ 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能					
	□ 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい					
(2) 施策の成果評価に対する2024年度専務事業総括						
各種大会出場支援事業						
①施策の成果向上に寄与した事業 度が高かった事業 専務事業	ゲートボール普及活動事業	②施策の成果向上に寄与した事業 度が低かった事業 専務事業				
	スポーツ人材強化・育成支援事業					
	トレーニング施設維持管理事業					
③専務事業全体の振り返り(総括)	・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業は様々な一流選手等をお招きし、子ども達等に還元できる事業として継続的に実施する。R6年度は新たに北海道オール・オリンピックズと包括連携協定を締結し新たな可能性を上げた。 ・社会体育施設の整備については、総合体育館の暖房工事を終え、温水プールの運営等、周辺の一体的な整備が概ね終了した。(旧プール跡地利用については、Park-PFI構想とともに検討する) ・ゲートボールの再生について、R6年度は発祥の地大会にブラジルから多くの参加者が来町し、大会を盛り上げた。引き続き、若い世代や青年層への普及を重点的に進めるとともに、継続して取り組む環境の整備等について関係団体と引き続き連携・強化を進める。					
(3) 「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)						
担当課 評価	総合体育館周辺の工事が概ね終了したなかで、特にトレーニングセンターの利用者が顕著であり、施設利用場面に貢献している。ゲートボール再生に向けた取り組みについては、発祥の地大会のブラジルチームの参加、マチルダや高松市の活躍、北海道教育大岩見分校との連携等の明るい話題もあるが、引き続き発祥の地として競技振興につとめる。					
	進捗結果	A	B	C	D	E
A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した						

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

加策を取り巻く状況と今後の予測	・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業について、R6年度は新たにレハバンガ北海道との連携事業、永原和司さんのバトミントンクリニックや北海道オール・オリンピックアンズとの連携事業を実施した。子ども達等に夢や希望、努力することの大切さを伝えるものとして、引き継ぎ事業を進めていくとともに、幅広い競技の一流選手(OB等)を招致を目指すしていく。 ・総合体育館周辺の一帯工事は概ね終了したところであり、特にR6.7月にオープンしたトレーニングセンターの利用や子育て支援策として総合体育館内の旧トレーニングセンターを改修したキッズルームの利用者が顕著に増えた。 ・ゲートボール振興策として「挑戦の流儀」を更新(R7～)し、発祥の地としてゲートボール振興を引き続き実施する。 ・中学校の部活動地域移行については、まだ時間を要するところであるが、R7年度中にR8年度から国が示す改革実行期間に合わせたロードマップ作成を行い、計画的に実施していく予定である。
この施策に対して住民・事業関係者からどのような意見や要望が寄せられているのか。	温水プールや温浴施設の利用者からの声が多く届くので、都度指定管理者側と協議・相談しながら対処している。 社会体育施設再整備構想及びPark-PF構想による運動公園広場利用者の移転について話し合いをしている。 健康プラザの雨漏りの解消、人工芝の更新等の要望

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取組むべき課題)

実な実施	・「一流を見て・聴いて・学ぶ」事業の推進 →各種スポーツ団体等(コンサドーレ・レハバンガ北海道、北海道オール・オリンピックアンズ等)と連携事業の着 →様々な種目との交流を通し、子ども達等の夢や希望の実現、努力することの大切さを伝える ・社会体育施設再整備構想における計画的な施設整備。 →健康プラザにおいて、雨漏りや人工芝等の更新を控える。財源等も考えながら実施に向け検討していく。 ・GB再生計画「挑戦の流儀」(R7～)の着実な実施。 ・部活動地域移行(地域展開)の取組 →専門コーディネーターの採用 →R8からの改革実行期間に対応したロードマップ作成
-------------	---

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、前進したと評価する。	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	○				

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	B ・トレーニングセンターの好評や、行く人の増加。 C ・成果指標は減少もあるが、全体的には伸びている。 ・チャレンジデーが廃止された後も新しくスポーツを始め始めるきっかけになる取り組みをしている。	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	・上美生は体育館に冷房が付いていない。対応できないか。 ・スポーツの習慣づけのため、ラジオ体操など、いろいろな取り組みを情報発信できないか。 ・ゲートボールのルールが難しいため、もっと簡略化できないか。 ・部活動の部費が、高く感じる。何か対応できないか。 ・スポーツを始め始めるきっかけとして、1日体験等ハードルを低くし、広報できないか。	1	4			

A: 実現した

B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した

C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した

D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した

E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

施策の外部評価(専門部会)意見への対応一覧

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
1	2-1-2	社会教育の推進	意見	部活動の地域移行について。 社会教育委員・スポーツ推進委員で、同じテーマで話していても話し合う内容が違う。そのため、皆で話す機会を作ってもらえたらと思う。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	スポーツ人材強化・育成事業	
			対応内容	本町は、令和6年度より「芽室町部活動地域移行推進協議会」を設立し、部活動の地域展開に向け協議を進めており、令和11年4月から全ての部活動が、地域全体で支えていく体制となることを目指しています。今後も本事業を取組む上では、地域への説明会の実施も予定しており、地域の皆さまの協力を得ながら事業体制を整える考えです。 これまでの協議会の取組等につきましては、町ホームページにおいて掲載しておりますので、御確認いただけますと幸いです。	
2	2-2-1	地域文化の振興	意見	文化展について。 公民館は、作品展示に使いづらい。出展数を絞ることや、めむろーどで開催するということも考えたらどうか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	芸術鑑賞会等開催事業	
			対応内容	文化展は、広く市民の日頃の創作活動の成果を披露する機会であり、作品数の絞り込み等を行う考えはありません。会場に関しても現行施設が適正と考えておりますが、展示方法を含めた会場利用の在り方については継続して検討していきます。	
3	2-2-1	地域文化の振興	意見	文化は、多様化している。 行政でできることは、地域の潜在的な力を引き出すことではないか。どうすれば市民で楽しめるかなどにシフトすると、わかりやすい事業になるのではないか。何をやるかはメンバーや予算などで工夫が必要だと思うが、環境・メリットが見えると予算のつけ方もわかりやすいのではないか。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	文化財保護事業、芸術・文化振興支援事業	
			対応内容	「文化」は、捉え方次第で多岐に亘るため、行政だけではなく、様々な文化活動に従事する個人、団体等の意見や要望も踏まえながら、適正な保護や活動支援に繋げていかなければならないと考えています。	
4	2-2-1	地域文化の振興	意見	郷土史の保全について。公共的な保証が欲しいものである。例えば、裸神輿が行われていたが、それを振り返る機会がない。芽室町で大切にしてきた文化を保証する。記録を残すことができるのは行政だと思う。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	ふるさと歴史館運営事業 図書・視聴覚資料の貸出・保存事業	
			対応内容	町の歴史(記録)に関する文献資料の保管は図書館、歴史資料の保存・展示等の普及活動を歴史館が担っています。各館の役割として、様々な視点に立った町の歴史の発掘・継承も考えながら事業を行っていく考えです。	

施策の外部評価(専門部会)意見への対応一覧

No.	施策番号	施策名	外部意見		担当課
5	2-2-2	スポーツしやすい環境づくり	意見	GBの人口が増えない。ほかのスポーツのように、人が集まりやすいよう、ルール改正をしたらどうか。発祥の地だからこそできると思う。もっとカジュアルにできるアイデアがあれば、人口が増えるのではないかな。文化的なスポーツであり、芽室町がもっと発信して人口を増やしていけたらと思う。	生涯学習課
			対応方針	1 対応する ② 検討する 3 対応不可	
			対応事業名	ゲートボール普及活動事業	
			対応内容	本町が主催となる大会で、未経験者が多く集まる大会においては、誰もが簡単に参加することができるよう、特別ルールで大会を開催していますが、より多くの方が取組めるよう、今後も継続し検討して参ります。	

